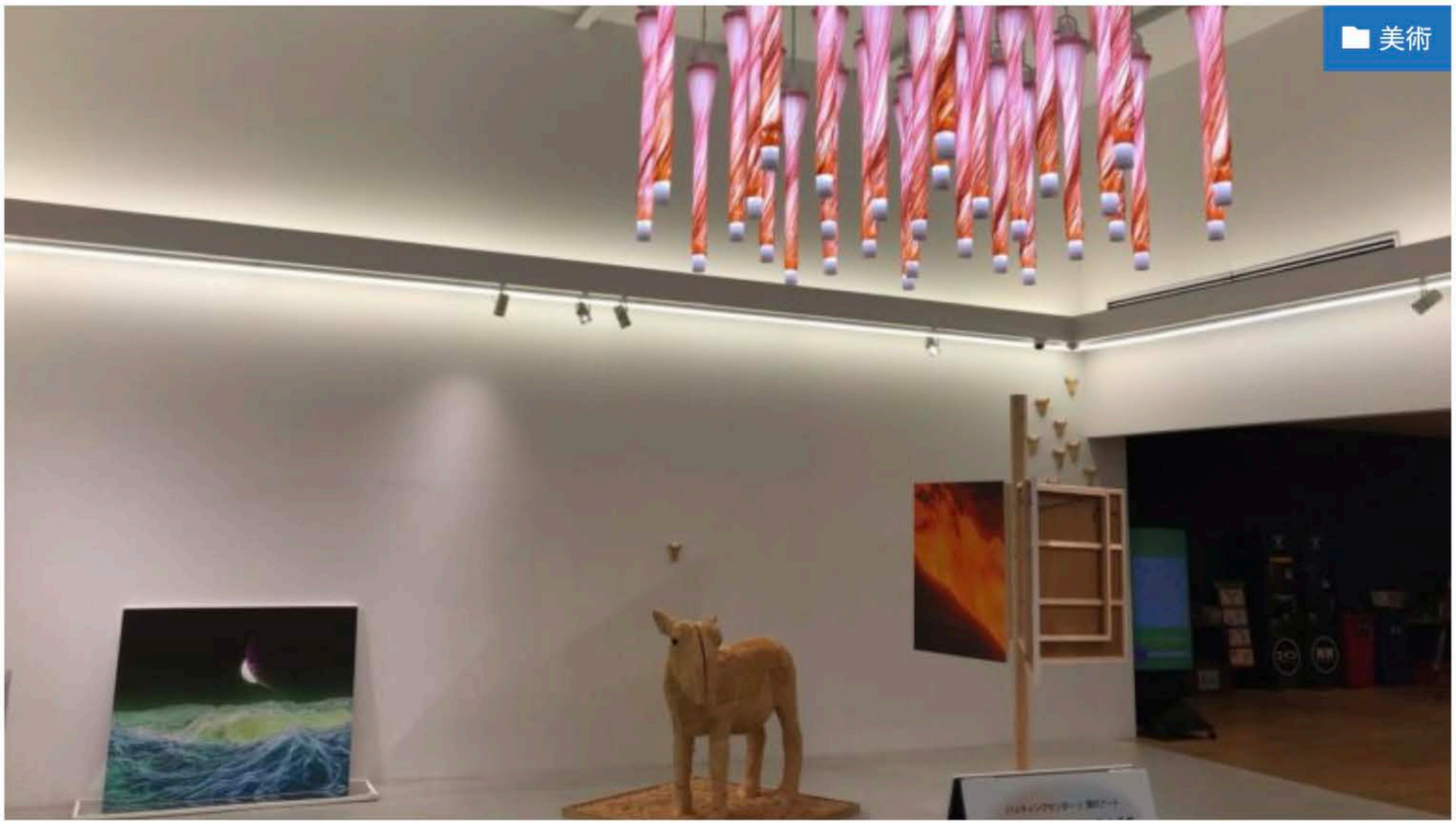
木村充伯　Luc Schol (ルック・ショル)　安宮理子　バッティングららら緑店(名古屋)で現代美術展 7月30日-10月10日

2022年9月19日　2022年9月19日　美術　ケンジタキギャラリー



バッティングららら緑店（名古屋）　2022年7月30日～10月10日

目次 閉じる

1 バッティングセンターにホワイトキューブの展示空間　現代美術のグループ展を開催
2 GROWING SPACE

検索
キーワード
キーワードを入力
カテゴリー
カテゴリーを選択
タグ
2020年 名古屋市博物館
国際芸術祭あいち 国立工芸館
四日市市文化会館 和歌山県立近代美術館
名演小劇場 名古屋造形大
名古屋芸術大 名古屋画廊
名古屋市美術館 名古屋市民ギャラリー
名古屋学芸大 大須演芸場
名古屋シネマテーク 古川美術館
刈谷市美術館 伏見ミリオン座
京都国立近代美術館 三重県立美術館
三重県文化会館 一宮市三岸節子記念美術館
ロームシアター京都
ヤマザキ マザック美術館
多治見市陶磁器意匠研究所
山形国際ドキュメンタリー映画祭
ふじのくに⇄せかい演劇祭
瀬戸内国際芸術祭 長久手市文化の家
金沢21世紀美術館 豊田市美術館

2.1 木村充伯
2.2 ルック・ショル
2.3 安宮理子

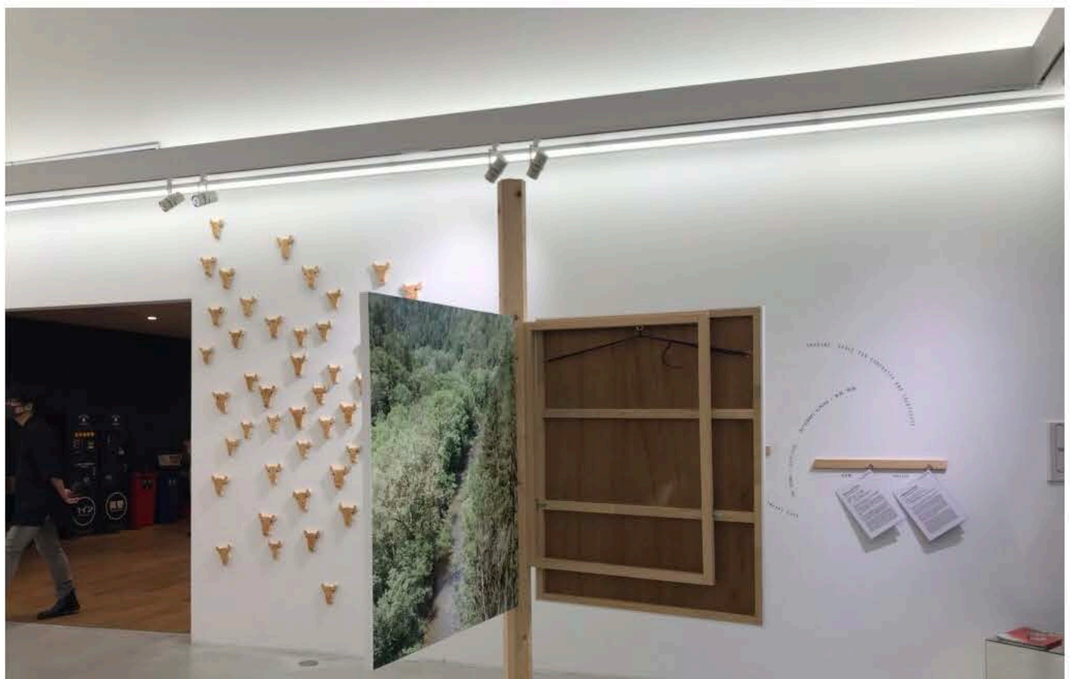
バッティングセンターにホワイトキューブの展示空間　現代美術のグループ展を開催

名古屋のバッティングららら緑店（緑区鳴海町杜若92）で2022年7月30日～10月10日、現代美術のグループ展「GROWING SPACE」が開催されている。国際芸術祭「あいち2022」のパートナーシップ事業である。

出展作家は、木村充伯さん、ルック・ショルさん、安宮理子さんの3人。バッティングセンター入口ロビーに設けられたギャラリーで、営業時間中は気軽に鑑賞できる。本格的な現代アートをバッティングセンターで展示するという注目の試みである。

スポーツ・遊興施設と現代アートいう意外な組み合わせによって、サイトとスペースの新たな展開、アートとの出会いの機会の創出を目指している。

バッティングららら緑店など、愛知県内でバッティングセンターなどの事業を展開する「マルエ」（愛知県春日井市）と、2019年からアートプロデュースを手掛ける「SYNONYM(シノニム)」（名古屋市中村区）の共同企画である。



豊田市民芸館
豊橋市美術博物館
美濃加茂市民ミュージアム
織部亭
碧南市藤井達吉現代美術館
目黒陶芸館
白土舎
滋賀県立美術館
岐阜県現代陶芸美術館
清須市はるひ美術館
桜ヶ丘ミュージアム
新世紀工芸館
文化フォーラム春日井
愛知芸術文化センター
愛知県陶磁美術館
愛知県芸術劇場
愛知県美術館
愛知県立芸大
岐阜県美術館
プラット
フェスティバル/トーキョー
2021年
IAMAS
NAO MASAKI
Nagoya
N-MARK
MAT,Nagoya
MAT
masayoshi suzuki gallery
Lights Gallery
LAD GALLERY
L gallery
KYOTO EXPERIMENT
Gallery 芽楽
ON READING
gallery N
GALLERY IDF
Gallery HAM
GALLERY CAPTION
GALERIE hu:
FLOW
Barrack
AIN SOPH DISPATCH
A・C・S
2022年
NODA CONTEMPORARY
SA・KURA
ハートフィールドギャラリー
ギャラリーヴァルール
なうふ現代
ジルダールギャラリー
シネマスコーレ
シアターカフェ
ケンジタキギャラリー
ギャラリー想
ギャラリー数寄
ギャラリーラウラ
ギャラリーサンセリテ
ギャラリーヴォイス
ギャラリーアートグラフ
See Saw gallery
ギャラリー・ノイボイ
ガレリア・フィナルテ
ガルリラペ
おおぶ文化交流の杜 allobu
ウエストベスギャラリーコヅカ
あいちトリエンナーレ
アートラボあいち
YEBISU ART LABO
STANDING PINE
SPAC
SHUMOKU GALLERY
静岡県立美術館

2021年3月、バッティングららら緑店のリニューアルオープンに合わせ、ロビーにホワイトキューブの展示空間「GROWING SPACE」を開設したのが契機となった。

そのとき、ロビーに、安宮理子さんのシャンデリア（照明器具）の作品「神経-筋機能」を設置。今回は、その作品を起点にキュレーションされた初の特別展示である。8月24日には、木村さんによるワークショップも開催された。

今後は、「成長するスペース」の名称通り、展示作品を入れ替えつつ、さまざまなプロジェクトを展開する。

GROWING SPACE

展覧会のテーマは、コロナ後を見据えた自然と動物、人間の共存とエスケーピズム（現実逃避）である。

展示は、現代の世界が直面するパンデミック、ディストピアを映し出すとともに、自然への回帰や動物との共存、自由な空想、新たな遭遇など現実からの逃避を積極的に捉え返している。

木村充伯

井上 昇治

1964年、名古屋市生まれ。1989年、中日新聞社に入社し、新聞記者として、文化部、生活部などで美術、演劇、映画、食品、住宅、年金やマネーなどを担当。現在は、企業や大学向けの文章講座の講師、教材開発などを担当している。また、2002年10月、名古屋で芸術批評誌REARを有志で立ち上げ、2011年頃まで編集。2019年 6 月には、WEBサイト OutermostNAGOYAをスタートした。アート情報発信

木村充伯さんは1983年、静岡県生まれ。2007年、名古屋造形芸術大学大学院修了。 現在は、静岡県を制作拠点としている。名古屋市美術館の「現代美術のポジション 2021-2022」に出品した。

動物を主なモチーフに、クスノキ、ヒノキや油絵具を使った彫刻をはじめ、平面、インスタレーションを制作している。木の毛羽立ち、絵具の物質感など素材の特徴とモチーフとの関係、動物と人間、環境のつながり、境界がテーマとなっている。

近年は、コロナの感染拡大をきっかけに「呼吸」という切り口で、人間と動物に意識を向けている。

今回出品された2作品はいずれも、「Breathe」（息）というタイトルがついている。

モチーフは、中央アジアに生息する草食動物サイガ。厳しい環境の中で生きるため、息を吸い込む際、外気の温度を大きな鼻で調整する生態に着目し、呼吸を通じて、パンデミック下における人間の生存についても思いを巡らせる。

2020年のケンジタキギャラリー（名古屋）での個展レビュー、「愛知県美術館 2020年度第3期コレクション展」も参照。

ートライティング関係者や、ビジネスパーソン、学生向けに、文章力向上のための教材、メディア開発に取り組んでいる。

その他

Checkout

Order Confirmation

Order Failed

アーティスト・リンク！

おすすめの美術館、博物館、ギャラリー

お問い合わせ

これだけは見たい！全国の展覧会‥

サイトの紹介

サイトマップ

プライバシー・ポリシー

執筆者一覧

週間人気記事ランキング

2021年11月3日 2022年9月9日

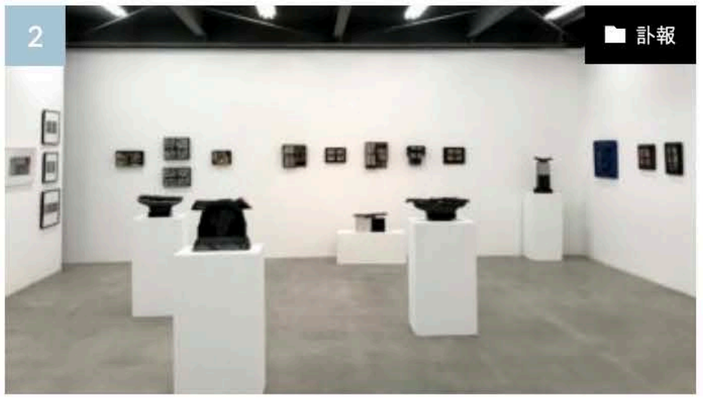
2022-2023年　主な展覧会　愛知（名古屋）、三重、岐阜、静岡、長野、石川の美術館・博物館

ルック・ショル

ルック・ショルさんは1991年オランダ生まれ。オランダのハーグ王立美術学院、ウィレム国王学院で学び、英国のロイヤル・カレッジ・オブ・アートで修士号を取得した。

ロンドンとロッテルダムを拠点に制作。今回が日本で初めての作品発表となる。

写真イメージとコンピューターによる3DCGを使い、フィジカル、あるいはデジタルな逃避的世界を探求しているアーティストである。



2022年3月11日　2022年3月11日

彫刻家の国島征二さんが死去　84歳

2022年8月15日　2022年8月21日

瀬戸現代美術展2022　愛知県瀬戸市の菱野団地で9月17日-10月23日

2022年8月30日　2022年8月30日

美術家の篠田太郎さんが死去　57歳

2022年3月22日　2022年3月22日

今回は、旅の風景イメージをツリー型に展示。鑑賞者は、その周りを回遊しながら鑑賞する。同時に2つの画像を見ることはできず、ツリーの周囲を歩くことで、ゲームのように謎めいた風景イメージに遭遇する。

風景は、自然の中で撮影されたものとコンピューターで丁寧に加工された想像上のものが混在している。写真には、ドイツのブラックフォレスト、ヨルダンの死海や砂漠、月のイメージが使われている。

エスケーピズムと崇高を感じさせる多層的なイメージは、美しさと好奇心、冒険心、希望と安寧、不安など多様な感情をかきたてる。炎の動きを捉えた映像作品も出品している。

安宮理子

安宮理子さんは1993年、大阪府生まれ。2015年に京都精華大学を卒業後、英国ロンドンのセントラル・セント・マーチンズでアート・サイエンスを専攻し、芸術学修士を取得した。現在の制作拠点は東京である。

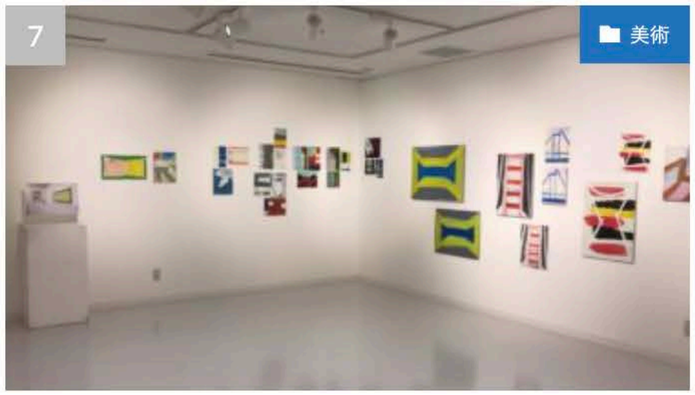
特別展 ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展　2022年7月16日-9月25日/大阪市立美術館

6 美術

2022年9月7日 2022年9月16日

ゲルハルト・リヒター　豊田市美術館（愛知県）で10月15日-2023年1月29日　9月17日からオンラインでの前売り開始

7 美術



2022年9月12日 2022年9月12日

登山博文 Drawing/Tableau 2008-2010　Art Space NAF（河合塾美術研究所）で9月5-18日

8 美術

2022年6月24日 2022年9月12日

BIWAKO ビエンナーレ2022　滋賀県近江八幡市、彦根市で10月8日-11月27日に開催

9 美術

人間の体に関連した主題をテキスタイルやミクストメディア、インスタレーションなど多様なメディアによって作品化するアーティストである。

知覚の可能性を広げ、マルチメディアによって鑑賞者とのコミュニケーションを図る狙いもある。

今回展示された2作品は、いずれもインタラクティブな作品である。

ロビーの天井から吊るされた「神経- 筋 機能」は、人体骨格を想起させるシャンデリアで、ラテックスを細かく割いて筋繊維のように制作。電気信号が神経から筋肉へと伝達される様子を光で再現し、鑑賞者の場所によって反応する。

もう1点は、筋肉の伸縮によって血液を全身に循環させる心臓に着目。心拍センサーによって、鑑賞者の心臓の動きを視覚化した作品である。

最後までお読みいただき、ありがとうございます。（井上昇治）

2022年6月25日　2022年6月24日

三重県亀山市で「亀山トリエンナーレ2022」　10月30日-11月19日に開催

2022年6月16日　2022年6月16日

楳図かずお大美術展　2022年9月17日-11月20日　大阪・あべのハルカス美術館で開催

あいちトリエンナーレ2019特集

情の時代
あいち
トリエンナーレ
2019
AICHI TRIENNALE 2019:
Taming Y/Our Passion

東海地方（愛知〔名古屋〕、岐阜、三重）の美術館、ギャラリー展覧会情報（更新中、毎週木曜日配信）

執筆者

井上 昇治

1964年、名古屋市生まれ。1989年、中日新聞社に入社し、新聞記者として、文化部、生活部などで美術、演劇、映画、食品、住宅、年金やマネーなどを担当。現在は、企業や大学向けの文章講座の講師、教材開発などを担当している。また、2002年10月、名古屋で芸術批評誌REARを有志で立ち上げ、2011年頃まで編集。2019年 6 月には、WEBサイトOutermostNAGOYAをスタートした。アート情報発信のオウンドメディアの可能性を追究するとともに、アートライティング関係者や、ビジネスパーソン、学生向けに、文章力向上のための教材、メディア開発に取り組んでいる。

投稿一覧へ ›

最新情報をチェックしよう！

フォローする

シアター・ナウ！　映画と舞台